課題 A：単元案の概要

テーマ
自分たちの視点で「日本文化らしさ」を考えてみよう
目標（科目「日本語・日本文化Ⅰ」におけるねらい）
学習レベル　３～４ ・日本語をより深く理解するために必要な、日本文化や日本社会、日本人の行動様式などについて考え方を深める。 ・自分とは異なる文化背景を持ったクラスメートとのディスカッションを通じ、異文化に対する態度について考える。 ・日本文化を考えるヒントとして、擬音語・擬態語、ことわざについての知識を得る。
コミュニケーション能力指標
＜話題分野：自分と身近な人びと＞ 3-c.　自分の経験について、語り合ったり、書いて伝えたりできる。 **＜話題分野：地域社会と世界＞** 3-c.　日本や相手の国の人びとの、暮らしや生活習慣について、口頭または文章で紹介しあうことができる。 3-g.　社会的な関心事について、読んだり聞いたりして大意を理解できる。 4-d.　日本と相手の国の関係について調べ、自分なりの意見をレポートにまとめることができる。 **＜話題分野：ことば＞** 3-b.　日本や相手の国でよく使われることわざや慣用句を、聞いて理解したり、その意味を説明したりできる。
学習シナリオ
＜場面状況＞ 勤務校における日本語選択科目の授業での実践である。学習期間は１セメスターで、週２回×14 週間の 28 回（中間試験１回を含む）の授業と期末試験、そして期末レポートを課している。学習者は多国籍が混じる留学生で、授業の核は学習者それぞれが興味を持っている日本文化の事象について調べ、その結果自分が発見したこと、感じたこと、考えたこと（「自分の目から見た日本文化らしさ」）を発表してもらうことである。文化を考えるヒントとなる言語知識として、学期前半に「擬音語・擬態語」、学期後半に「ことわざ」を扱う。 ＜シナリオ＞ ●学期前半（第１クォーター）：グループ発表 ①自分にとって「日本文化らしい」と思う事柄、事象を挙げ、クラス内で意見交換する。 ②来日後、どのような場面や状況で自分の文化とは違う「違和感」を感じたのか、について自分の体験を基に話し合う。 ③①、②の活動をもとに文化事象をある程度カテゴリー化し、同じカテゴリーに興味を持っている学習者でグル

ープを作り、テーマを決めて発表準備を進める。準備過程でPC教室を使ってテーマに関する事柄を調べる、地域ボランティアの方との交流を持ち、テーマについて意見を求める、などの活動を行う。

④グループ毎にクラス内で発表を行い、質疑応答を行う。発表を聴く学習者には評価シートを配布し、学習者間での相互評価を行う。発表はビデオで撮影し、中間試験の際に学習者に見させて自己評価を行う。

⑤上記の流れに加え、「擬音語・擬態語」を５回シリーズで25個学習する。（ミニクイズ、中間試験）

●学期後半（第２クォーター）：個人発表

①学期末の個人発表のテーマを決める。テーマを決めるにあたり、３つの方向性を示す。（いずれかを選んで自分のテーマを決める）

・前半のグループプレゼンテーションで扱ったテーマについて、引き続き深めて考えていく。

・前半のプレゼンテーションテーマとは異なった日本文化の事象について調べ、考える。

・日本文化との比較の視点を持って、学習者の「自文化」に関する事象で「自文化らしさ」を考える。

②学期前半と同様、PC教室を使った作業、地域ボランティアの方との交流、またクラス内でも自分のテーマについてヒヤリングなどを行う、などをしながら準備を進める。

③クラス内で一人一人発表を行い、質疑応答を行う。発表を聴く学習者には評価シートを配布し、学習者間での相互評価を行う。発表はビデオで撮影し、期末試験の際に学習者に見させて自己評価を行う。

④上記の流れに加え、「ことわざ」を５回シリーズで50個学習する。（ミニクイズ、期末試験）

総括的評価

◉プレゼンテーションで評価を行う。評価ポイントは以下の5点とする。

a. 内容の構成のわかりやすさ＜はじめ一中一まとめ＞

b. グループのテーマ（あるいは個人が設定したテーマ）について、自分たち（自分）の視点から考察が導かれていたか

c. 日本語の表現：内容が聞き手に理解できる、適切な日本語で話せていたか

d. パフォーマンス：原稿に頼らず、聞き手に語りかけていたか

e. スライド（PPT）：発表を補助するための効果的なスライドが準備されていたか

◉言語知識（擬音語・擬態語／ことわざ）については、中間試験と期末試験で評価を行う。

課題Ｂ：３×３＋３分析表

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	・日本語に多いとされている「擬音語・擬語について知る。（A-1、A-2） ・日本のことわざを知る。同じ場面で使われることわざで、母国のことわざとは表方法が違うことに気づく。（A-1、A-2）	・授業を通し、様々な日本文化の事象について知る（D-1） ・日本の文化事象について調べ、発表する過程で新たな発見をしたり、自文化との違いに気づく。（D-2）	・授業の中でのクラスメート（多国籍）とのディスカッション、地（日本語母語話者）との交流を通し、文化の違いによる考え方や価観の違いに気づく。また異文化を理解するとはどういうことか、にて考えるようになる。（G-1、G-2）
できる	・日本語で自分が調べたいテーマについ説明し、自分のテーマに対する相手からの情報や意見が理解できる。（B-1） ・母語話者である地域ボランティアの方の対話の中で、自分の伝えたい内容を理解してもらうため、また相手が話す内容理解するためのコミュニケーション・スジーを使うことができる。（B-3）	・学期を通し、日本文化の背景にある考え方や価値観について考えたり、自文化およびクラスメートの出身国との共通点や相違点について考える。⇒ 考えたことをクラスメート地域の方に伝える（E-1～3）	・異なる文化背景を持ったクラスメートとグループ活動を行い、意換をしながらグループ発表に向けて自分の役割を果たす。（H-1） ・上記のグループ活動の中、またグループ発表、個人発表を通し、手に自分の意見や考えをわかりやすく伝えるための工夫を考える。（H-2） ・自分のテーマについて調べる過程でICTを有効に使うことができる。（H-3）
つながる	・グループ活動において、日本語を使っクラスメートと話し、議論しながら発表けて自分たちのテーマについてまとめてくことができる。（C-1） ・日本語を使って地域の方と交流するこができる。（C-1）	・異なる文化背景を持ったクラスメート、ボランティアの方との交流、対話を通しお互いの考え方や価値観を認め合うことができる。（F-1）	・自分たちが調べ、考えたことを地域の方や学内の教職員に発表伝える。（I-1）

住田　環

三連携	連携１ ・自分が興味を持っている事象について調べ、深めていく。（学習意欲） ・自分たちのプレゼンテーションのすがたを観て振り返ることが、「自分の日本語」に対する気づきを促し、自分の考えを伝えるための「コミュニケーションスキル」を考える結果となる。 連携２ ・これまでに学習してきた日本語（既習内容） ・来日してからの日本文化に関わる経験（経験）異文化コミュニケーション（他教科） 連携３ ・自分たちのテーマに関わるウェブサイトを検索する。 ・地域の方と交流する。

課題Ｄ：指示文

皆さんは、異なった文化の島から「日本文化」の島に来て生活しているわけですが、毎日の生活の中で見たり、聞いたり、実際に体験したりする事象に対し、どのように感じ、考えているのでしょうか。この授業では、皆さんの視点から「日本文化」について考え、皆さんの目からみた「日本文化らしさ」（「自文化らしさ」）について日本語で発表してもらいます。

・第１クォーターではグループで、第２クォーターでは一人ずつ、PPT を使ってプレゼンテーションをしてもらいます。
・テーマは日本文化に関わる事象、あるいは日本文化と比較する視点を持った自文化に関わる事象とします。
・テーマに対する問題提起＜はじめ＞→テーマについて調べたこと、考えたこと＜中＞→問題提起に対する結論＜まとめ＞という流れで、聞き手にわかりやすい発表になるようにまとめてください。
・グループでの発表は分担をし、全員が話してください。
・発表時間は、一人４～５分×グループ人数を目安にしてください。（第２クォーターの個人発表は 8～10 分）
・第１クォーター、第２クォーターにそれぞれ１回ずつ、テーマについて日本人と話す機会を作ります。（地域交流）

住田　環

課題Ｅ：ルーブリック

日本語・日本文化Ⅰ　プレゼンテーション評価

◉発表時間が大幅に短い、もしくは長い場合は減点とします。

評価基準	目標以上に達成 （４点）	目標を達成 （３点）	目標達成まであと少し！ （２点）	目標達成まで努力が必要 （１点）
内容 （わかりやすさ・構成）	「はじめ→中→まとめ」の流れがあって、聞き手に「なるほど」と思わせる。	「はじめ→中→まとめ」の流れがあり分かりやすい。	「はじめ→中→まとめ」のどれかが欠けている。	内容が整理されておらず、分かりにくい。
内容 （自分（たち）の視点からの考察）	テーマについて深く掘り下げ、自分（たち）の視点から考察した独自の結論が導かれている。	グループのテーマについて自分（たち）なりの考察の観点を持ち、結論が導かれている。	テーマに対し、考察の観点はあるが、結論の導き方が不十分である。	テーマについて調べたことの紹介にとどまり、考察の観点がない。
日本語の表現	伝えたい内容が聞き手に十分伝わる、適切な日本語で話している。	伝えたい内容が、聞き手にほぼ理解できる日本語で話している。	伝えようとする努力は見られるが、時々聞き手に話の内容が理解できないことがある。	伝えたい内容が聞き手にうまく伝わっていない。
パフォーマンス（話し方）	原稿を全然（ほとんど）見ないで、聞き手に語りかけている。	ちらちらと原稿を見ることはあるが、伝えようとする姿勢がある。	ほとんど原稿を読んでいる。	原稿べったり。
スライド（PPT）	話の内容を補助するための、効果的な PPT が作られている。	必要な情報が書かれていて見やすい。	必要な情報が少し欠けていて見づらい。	分かりにくい。

住田　環

課題Ｃ：目標分解表（第１クォーターの授業について）

<table>
<tr><th>個々のタスク</th><th>小目標</th><th>中目標</th><th>大目標</th></tr>
<tr><td>「日本文化らしい」と感じる事象をリストアップする（20 個）＜ブレーンストーミング＞</td><td rowspan="3">クラスメートが日本について興味を持っている事象について知る。</td><td rowspan="7">発表グループを決める。

＜言語知識に関する目標＞
擬音語・擬態語について、よく使われる語彙を知り、どのような状況で使われるかがわかる。</td><td rowspan="10">自分たちが興味を持った日本文化の事象について調べ、その結果自分たちが発見したこと、感じたこと、考えたこと（「自分たちの目から見た日本文化らしさ」）を、日本語でわかりやすく発表できる。</td></tr>
<tr><td>上記 20 個の中から、自分が一番「日本文化らしい」と考えるものを挙げ、その理由を考える。</td></tr>
<tr><td>無作為のグループに分かれ、それぞれのブレストの結果を共有する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【形成的評価】ワークシートの提出（書かれている内容のチェック）成果物：ワークシート</td></tr>
<tr><td>来日後、日本で感じた「違和感」について、いつ、どんな場面や状況で感じたのか、実体験をまとめる。</td><td rowspan="2">クラスメートが日本で体験した「違和感」を知る。</td></tr>
<tr><td>無作為のグループに分かれ、それぞれの体験を共有する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【形成的評価】ワークシートの提出（書かれている内容のチェック）成果物：ワークシート</td></tr>
<tr><td>上記のグループ活動を経て、自分がテーマにしたい日本文化の事象を再考する。</td><td rowspan="3">「日本文化」に対して自分と似たテーマに対して興味を持っているクラスメートを見つける。</td></tr>
<tr><td>クラス全体でブレーンストーミングをする。</td></tr>
<tr><td>似た事象に対して興味を持っているメンバーでグループを作り、発表のテーマを決める。</td></tr>
<tr><td colspan="3">【形成的評価】教員チェック（テーマと問題提起の妥当性）
擬音語・擬態語に関するミニクイズ（５回シリーズで学習し、回毎にミニクイズを実施）成果物：答案</td></tr>
</table>

住田　環

<table>
<tr><td>地域の方への質問を考える。</td><td rowspan="4">地域の方との交流を通し、発表のために有用な情報を収集し、それをまとめる。</td><td rowspan="5">発表の流れを考え、発表内容を効果的に補助するPPTを作成する。</td><td rowspan="12"></td></tr>
<tr><td>地域の方と交流する。</td></tr>
<tr><td>地域交流で得られたことを各自でまとめる。</td></tr>
<tr><td>地域交流で得られた情報をグループで共有する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【形成的評価】ワークシートの提出（書かれている内容のチェック）成果物：ワークシート</td></tr>
<tr><td rowspan="3">PC教室で必要な情報を調べる。
グループで発表の流れをまとめる。
PPTを作成する。</td><td>・インターネットを使い、発表に必要な情報を収集する。</td></tr>
<tr><td>・PCを使い、発表のための資料を準備する。</td></tr>
<tr><td>・発表分担を考える。</td></tr>
<tr><td>グループで発表の練習を行う。</td><td rowspan="2">聞き手にわかりやすく伝える。</td><td rowspan="3">グループでまとめたことをクラス全体で共有し、各グループの考えを知る。</td></tr>
<tr><td>グループ発表を行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">他のグループの発表を聞いてコメントし合う。</td><td>他のグループの発表を聞いて、質問やコメントをする。</td></tr>
<tr><td>他のグループの発表を聞き、ルーブリックに基づいて評価する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自分たちの発表を録画ビデオにより振り返る。</td><td rowspan="2">自分たちの発表を自己評価する。</td><td>自分たちの発表のよかった点、改善点がわかる。</td></tr>
<tr><td>自分の日本語を振り返る。
（発音・正確性など）</td></tr>
<tr><td colspan="4">【総括的評価】教員によるルーブリックに基づいた発表への評価
中間試験（既習の擬音語・擬態語の確認／グループ発表の流れを文章でまとめる）</td></tr>
<tr><td>他のクラスメンバー、教員からの評価・コメント受け取る。</td><td>自分たちの発表に対する聞き手からの評価を知る。</td><td></td><td></td></tr>
</table>

課題Ｇ：学習者の個人的特性に対する対応

履修学生のうち、両親あるいは両親のどちらかが日本人である学生が３人いた。育った環境はそれぞれであるが、家庭内では小さい頃から日本語を聞き、使ってきているので、他の学生と比べると日本語の力（特に話す力）にかなりの差が見られた。しかしながら、本人たちがその状況に高ぶることなく積極的に授業に参加してくれたこと、また周囲を助けてくれたことで、大きな問題なく進めることができた。

その他、日本の高校で学んだ学生が１人いた。すでに日本語能力試験１級に合格しており、日本での生活も長いので自然な日本語が身についている学生であり、授業への参加も積極的であった。その一方で、他の人の答えまで取って発言してしまう傾向があり、クラスメンバーが話しづらくなってしまう場面があった。他の学生を指名して答えてもらおうとしたときに彼女が発言したときには、誰に当てているのかを明確に示し、注意をした。改善され、グループ活動も周囲の学生たちと協力して進められていた。

住田　環